

探訪 チャレンジ企業 80

地元産古代米を活用した和スイーツの商品開発

御菓子処 中條：中能登町

今回のチャレンジ企業は、創業から約百年の歴史を有する老舗菓子店「御菓子処 中條」（中能登町）をご紹介します。

一 異業種交流グループによる町おこしに参加

昭和六十二年、中能登町（旧鹿西町）の杉谷チャノバタケ遺跡から、炭化した米の塊「おにぎりの化石」が発見されたことを機に、旧鹿西町では、おにぎりをテーマとする町おこしが盛んに企画され

るようになりました。そんな中、平成十一年に異業種交流グループ「一（はじめ）の会」が結成され、古代米を使った町おこしへの取り組みがスタートし、当店もメンバーの一員に加わって「おにぎりの里」を売り出せる商品開発に取り組みようになりました。



店主：中條一之さん

二 「古代米」を活用した商品開発

当初開発したおにぎり饅頭「縁結び」は、「子供の頃に遠足などに持って行った竹皮に包んだおにぎり」をイメージして開発したのですが、饅頭の生地を米を付けるための配合の割合や生地の中に餡を入れて握る成形は難しく、試行錯誤の末にようやく完成に漕ぎ着けました。

しかし、和菓子に古代米という素材を取り入れたことにより、色合いや風味に「いにしえ」のイメージを纏わせ、おにぎりの里というストーリー

性を表現することができ、全国菓子大博覧会で会長賞を受賞されました。

以来、古代米の持つ素材としての魅力（独特の色合い・豊富な栄養価・素材な風味ともちもちとした食感）をどう和菓子にマッチングさせ、引き立たせるかを考えながら、いつか古代米商品を町の銘菓にしたいという思いで商品開発を続けてこられました。

三 活性化ファンドを活用し、新たな展開

近年、当店では地域イベントや物産展などへの出展を行ってききましたが、従来のプロモーション手段では商品の特性等を消費者に十分伝える事ができていないのではないかと考えた中條さんは、当店の看板商品である「古代米関連商品」に、より焦点を絞ってプロモーション活動を展開するため、平成二十二年に県の活性化ファンド事業への申請にチャレンジしました。

事業計画書作成には時間がかかりましたが、その分、古代米の素材としての魅力を再度見つめなおし、また事業の方向性や優先順位を整理するという点で、大変いい機会になったと話されていました。



女性に人気：古代米おこわまんじゅう

そして、見事に平成二十二年度の認定事業として採択され、新たな取り組みをスタートしました。既に商品カタログや商品POPなどを制作したほか、同時に、古代米を活用した新商品「古代米おこわまんじゅう」を開発することによって、より充実したラインナップ化を図り、新たな販路開拓活動を展開しています。

四 新店舗オープンを機にさらにチャレンジを

今年一月、念願の新店舗がオープンし、「お客様をお迎えするにふさわしい舞台が整ったので、これまで以上に自慢の商品を多くの人に味わってほしい」と語る中條さん。中能登町で計画されている道

の駅のオープン（平成二十六年）を見据えながら、地元ならではの銘菓作りに、チャレンジはさらに続きます。



和モダンな新店舗には休憩コーナーもある

（お問い合わせ先）

御菓子処 中條

〒九二九-1-60 四

鹿島郡中能登町

能登部下九二-二六

TEL

〇七六七-七二二-〇七〇

（取材・執筆）

中能登町商工会経営指導員

浜野 誠二

浜野指導員の行った御菓子処中條様への支援は、平成二十三年度の石川県商工会優秀支援事例の優秀賞を受賞しました。

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお尋ねください。